

平成 22 年度協議会モニタリングの結果について

実施概要

「仙台市障害者保健福祉計画」及び第 3 期「仙台市障害福祉計画」の策定にあたり、障害者やその家族、障害福祉サービス事業所等の現状と課題、今後の意向などを把握し、計画策定にあたっての貴重な意見として生かすとともに、障害者の安心した地域生活を支えるあり方など、本市における今後の障害者施策の方向性を検討するための参考とすることを目的として、下記のとおりヒアリングを実施した。

協議会モニタリング

本市障害者施策推進協議会委員延べ 15 名が参加し、以下のとおりヒアリングを実施。

(1) 合同ヒアリング

□日時・人数：平成 23 年 2 月 15 日（火）18：00～20：00

対象者 17 名、協議会委員 11 名、市職員 12 名

□場所：仙台市役所上杉分庁舎 6 階第一会議室 他

□方法：協議会委員が別紙「聴き取り項目の例」に基づいて聴き取りを実施。

(2) 事業所等訪問ヒアリング

□日時：平成 23 年 2 月 8 日（火）～18 日（金）、1 カ所当たり 2 時間程度

□実施カ所・人数：10 カ所、対象者 38 名、協議会委員延べ 15 名、市職員延べ 15 名

（障害者支援施設等で暮らす障害者）身体 3 名、知的 2 名、精神 2 名

（在宅で生活する障害者）1 名

（障害者当事者団体・グループ）車いすバスケットボールチーム 9 名、発達 3 名

（障害福祉サービス事業所等担当職員）身体 2 名、知的 2 名、精神 2 名

* 地域の商店街小売店事業者、学生等への聴き取りを予定していたが、東日本大震災の影響により中止。

□方法：協議会委員が別紙「ヒアリング項目」に基づいて聴き取りを実施。

ヒアリング結果（要約）

1 住まいの場

自宅や賃貸住宅、グループホームなど、居住形態は様々だが、現在の住まいについて、不満を持つ人は少なかった。中には何年も一人暮らしを続けている人や、現在は家族と同居しているが、いずれは一人暮らしをしたいと思っている人もいた。

一方で、グループホームに入居したいが経済的に困難である、一人暮らしをしていて何か問題が起きたときや、障害の状態が進んだ場合に不安がある、賃貸住宅にはバリアフリーが行き届いた物件が少ない、民間住宅は家賃が高いため、家賃が安い公営住宅へ入居したい、などの話や、同居家族の高齢化、介護についての不安を話す人もおり、緊急に何ら

かの対応が必要な人はいなかったものの、将来の地域生活に不安を抱えている人がいた。

また、施設入所やグループホーム等への入居についての話がなされ、入居者の経済的な負担についての話や、支援員の定着など、グループホーム等における支援体制充実の必要性についての話もなされた。

2 日中活動

事業所等における訓練や作業メニューの多様化により、障害者本人が自分にあった訓練等を選択し、行うことで活動への意欲が湧き、また、一緒に働く仲間や居住を共にする仲間、事業所等の職員とのコミュニケーションも上手く図られていることから、事業所等での活動については、充実している、満足している、といった感想があった。また、就労支援を行っている事業所から、就労の大切さと、今後の工賃水準の維持や増加など、就労に関する今後の課題も話された。

一方、企業等への一般就労については、「働きたい」という気持ちや就職して安定した収入を得て自立したいという希望はあるものの、障害の状態や病気のことなどで、一般就労は困難と考えている人もいた。また、障害者に対する企業等のより一層の理解を望む声もあり、雇用側も、ただ障害者を雇うだけではなく、障害の状態に応じた勤務時間や勤務体系の配慮など、障害者が働きやすい職場環境づくりを進めるべきとの話がなされた。

余暇活動については、多くの人が、文化・スポーツ活動や当事者活動、事業所等でのレクリエーション活動、読書や買物など、自分の好きなことで余暇を過ごしている。一方で、体調や経済的理由により余暇時間をうまく作り出すことができない人もいた。

移動については、交通費補助を活用しているとの話や、公共交通機関やタクシー、身体障害者専用駐車場の活用に伴う煩わしさについての声があった。

3 保健福祉医療

医療の面では、障害の状態や二次障害などによる治療の必要性から定期的に通院している人が多く、医師や看護師とのコミュニケーションの重要性を話す人や、かかりつけ医の選択肢の充実、通院・待ち時間の短縮や診療時間の確保を求める声もあった。また、当事者自身が症状や制度について学び、力をつけることが必要と話す声があった。

保健の面では、市民健診の実施医療機関の拡充や、予防接種への助成制度の周知広報を望む声があった。

福祉の面では、信頼できる相談支援の充実や、既存のサービスの改善、費用負担の軽減、新たなサービスの実施を希望する人、介護者である家族が休息を得るためのサービスの必要性を話す人がいた。さらに、高齢化した障害者への対応について、介護保険制度が優先される現状についての懸念と、障害福祉サービスの提供の必要性について話す声があった。一方で、福祉制度に頼らない生活が大切であるとの話もなされた。

4 家族・友人

家族については、障害や病気に対する一番身近な理解者であり、支援者であるため、同居・別居に関わらず、家族に感謝しながら、良好な関係を保ち、心の安定を得ている人が

いる一方で、障害や病気のことを家族に話せなかったり、家族の理解を得られず、家族との関係がぎくしゃくしたり、疎遠になっているケースもあった。

また、自分の障害や病気の進行などの不安に加え、家族の高齢化が進むことで、自宅での生活や通院など外出の心配、親の介護、親亡き後の生活に対する不安を抱えている。

友人について、現在の付き合いの範囲は、幼なじみや学校時代からの友人、事業所の仲間、趣味の仲間などで、中にはインターネットを活用してコミュニケーションを図っているとの話や、ブログを活用して自己主張したり、友人を作ったりしているという話もあった。病状により友人との約束を反故にすることもあり、申し訳なく思っている旨の話もなされた。

5 地域とのつながり

地域の中では、近所の人と挨拶を交わす程度であまり親しい付き合いはしない人が多いが、町内会等の役員などの役割を担って意欲的に活動している人もいる。

地域との関わりが地域生活を送る上で大切なことは理解しているものの、自分の障害のことや病気のことを近所の人には知られたくないし、そのことに対して自分からは話したくないという声がある。その一方で、自分の状態について打ち明け、理解してもらった上で近所の人に協力してもらいながら生活を送っている人もいる。

昔と比べれば、障害者に対する地域の理解は進んできているが、障害の特性や病気の症状については、なかなか理解されない部分があるため、障害・疾病について隠しているという声がある。また、外見では判断できない障害や病気を持つ人は、地域生活を送る中でつらい思いをしたことがある。

また、所得の保障、法人や施設によるバックアップ体制、住宅の確保が障害者の地域移行のために必要であるとの話があった。

防災意識については、なるようになる、起こったらそのときは仕方がないといった声もあったが、施設や団体においては災害対応について想定を行っており、広報もしている。

6 その他

情報交換については、口コミとインターネットによるものが多いが、必要な情報を得にくいという声があった。また、障害理解についての話があり、職場や周囲の理解の促進により、就労・地域生活が改善できるといった声が多数あがった。

障害者自立支援法施行後の変化については、職員の施設運営に対する意識が向上したとの声が多かったが、反面、能力の高い人材の育成については課題となっているとの声があった。他団体・機関との連携については、いろいろな施設の成功例を知りたい、情報交換の場が欲しいが自施設の職務に追われてなかなか手が回らないといった声があった。また、支援プログラムの見直し等の検討に行政機関が参加することで、改善が図られた例についての話がなされた。

【以上】

ヒアリング項目

1. 【障害者施設で暮らす人へのヒアリング項目】

(1) 施設での生活に関すること

- ・施設での一日の過ごし方をお聞かせください（日中の活動，余暇活動など）。
- ・現在，どのような活動が楽しみですか，お聞かせください。
- ・将来，どのような活動ができればもっと楽しいと思うことができますか。

(2) 地域移行に関すること

- ・地域で生活することについてどう思いますか。
- ・現在，地域で生活したいと思いますか。そう思うのは何故ですか。
- ・地域で生活していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。

(3) 地域に関すること

- ・地域の方々との交流の状況はどうですか。
- ・地域の方々ともっと交流するためにはどのようなことが必要だと思いますか。

2. 【発達障害のある人へのヒアリング項目】

(1) 暮らし住まいに関すること

- ・現在のお住まいは。また，どなたと一緒に暮らしていますか。
- ・ご家族と一緒に暮らしている方について，将来はどのような生活をしてみたいですか。

(2) 障害者地域活動推進センターでの活動等に関すること

- ・日中の活動の状況など，障害者地域活動推進センターでの一日の過ごし方をお聞かせください。
- ・現在，どのような活動をしているときが楽しいですか。
- ・今後，どのような活動をしてみたいですか。
- ・障害者地域活動推進センターに来ていないときは，何をしていますか。

(3) 就労に関すること

- ・就労（働くこと）について，どう思いますか。
- ・就労するためには，どのようなことが必要だと思いますか。

(4) 地域に関すること

- ・地域の方々（近所の人など）と交流（“あいさつ”や町内会行事への参加など）していますか。
- ・地域の方々ともっと交流するためにはどのようなことが必要だと思いますか。

3. 【障害福祉サービス事業所等担当職員へのヒアリング項目】

(1) 施設の活動について

- ・現在の施設の活動内容や、施設の活動で抱えている課題をお聞かせください。
- ・障害のある方が、いきいきと活動することができるために、日頃から取り組んでいることがあればお聞かせください。
- ・今後、施設として必要な取組み、また支援の方向性について、お聞かせください。

(2) 就労・地域生活に関する取組みについて

- ・障害のある方が就労するために、あるいは地域で生活していくために取り組んでいることがあればお聞かせください。
- ・障害のある方が就労するために必要だと思うことをお聞かせください。
- ・障害福祉サービスや就労以外に、障害のある方が地域で生活を送るために必要だと思うことをお聞かせください（バリアフリー・住まい・余暇活動など）。

(3) 障害者自立支援法施行後の変化について

- ・障害者自立支援法施行前と施行後で障害のある方に変化はありましたか。変化があった場合、具体的にどのような変化がありましたかお聞かせください。
- ・障害者自立支援法施行前と施行後で施設職員や施設運営に変化はありましたか。変化があった場合、具体的にどのような変化がありましたかお聞かせください。
- ・施設がその支援能力を十分に発揮するために今後必要と思うことは何でしょうか。

(4) 他団体・他機関との連携について

- ・他の施設と協働して行っている取組みはありますか。
- ・他の施設や行政との協働を行うためにどのような取組みが必要だと思いますか。
- ・貴施設は、地域社会の中で今後どのような役割を果たしていきたいとお考えですか。